

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年 2月 13日

事業所名 山形地域福祉事業所 陽だまりクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		部屋を使分け、児童たちに合わせた集団活動や個別活動を行っています。	もっと個別的な対応ができるように、環境を整えていきます。
	2	職員の配置数は適切である	○		人員配置基準よりも多くの職員配置に加えて、学生アルバイトの方も配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			必要に応じて対応をしていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎朝の朝礼、定期的なミーティング等にて課題や振り返りなど共有を行っています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		地域の民生員の方に、虐待防止委員として入って頂き、評価をしていただいています。	第三者委員として、さらに地域の方や関係機関の方が事業所にに関わり、外部評価の機会を増やしていきたいと考えています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修後はミーティング等で伝達研修を行い、共有をし実践に生かしています。	今年度は、さらに積極的に研修に参加し、実践に生かしていければと考えています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメント後、ケース会議を行い様々な視点から計画を作成しています。必要に応じてモニタリングを行いながら計画の見直しも進めています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所として統一されたアセスメント様式を活用しています。	今後、必要やニーズに応じて変えていくことも考えています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		役割分担を行い進めています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			ミーティングの回数や話す時間を増やし、その都度見直しを行っています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		外出活動など様々なイベントなどを考えプログラムに反映しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼、ミーティング、部門別ミーティング等で確認をしています。	職員の打ち合わせの時間を増やしすれ違い防止や、質の向上につなげていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		朝礼、ミーティング、部門別ミーティング等で確認をしています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回は必ず行い、必要に応じてモニタリングを行い見直しを行っています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		十分とは言えませんが、学校を含めた担当者会議、学校見学、学校からの事業所見学など、徐々に増えてきています。	今後もその都度共有をしながら、連携をしていきたいと考えています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					医療的ケア児は利用していません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			必要に応じて情報共有をしていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			必要に応じて情報共有をしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				毎年講師を派遣して頂き、研修や助言を頂いています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			今のところほぼないですが、近所の県立高校の高校生との交流が少しづつ出てきています。今後も継続していければと考えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			お迎え時や、モニタリング等でお話をさせて頂いています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			今後、保護者交流会やママカフェを活用し進めていければと思います。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				お迎え時やモニタリング等の時に、お話しをしていますが、十分とは言えません。交流会やママカフェを活用していきたいと考えています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			交流会、ママカフェを活用し保護者の方同士の連携を増やしていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			朝礼やミーティング等で共有をし、「保護者インシデント経過表」を活用しすれ違いを減らそうとしています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			通信やお知らせを活用し発信をしています。	現在ホームページを作成中で、完成すれば、さらに発信しやすくなると感じています。
	35	個人情報に十分注意している	○			掲示物などは児童の名前だけにしたり、児童の名前が書いてあるものは、裏返しにする等気をつけています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚による構造化に取り組んでいます。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			地域のサロン活動、イベント等で事業所を使って頂いています。	今後も、地域の方が事業所の中に入る枠組みを考えていきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	職員には配布し、共有をしています。	保護者の方には配布をしていないので今後対応を考えていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		職員のみ訓練を年2回。児童が参加する総合訓練を年2回。計4回行っています。	訓練については、作成中のホームページ等を活用して発信方法を工夫していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回以上研修を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			必要に応じて指示書をもらって進めていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			インシデント・アクシデントのファイルを作り職員間で共有しています。